

「二〇〇七年人口動 乳がんの手術は一九
 〇〇年代初頭にハルス
 よると、昨年一年間の
 死亡数は百万六千人
 で、死因別では、一位
 ががん（三十三万六千
 人）、二位が心疾患
 （十七万三千人）、三
 位が脳血管疾患（十二
 万七千人）」と、死因の
 上位は昨年と同じ傾向
 でした。

新薬の開発や医療技
 術の進歩とは裏腹に国
 立がんセンターは、二
 〇一五年には全てのが
 んで一年間に七十四万
 人が発症し、死亡者も
 増えると予測していま
 す。

日本における乳がん
 の統計的な特徴は、三
 十代後半から増え始
 め、四十代後半でピー
 クに達します。最近で
 は高齢者にも増え、食
 生活などの見直し指
 摘されています。

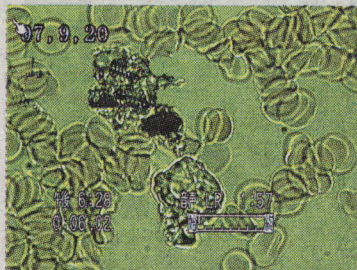


自然医学総合研究所所長

大沼 善誉

自然治癒を科学する

07年9月20日の血液画像（上）。白血球の動きは悪く、タールや未消化物などを確認。下は07年10月20日、元気に動き回る白血球



がんの盲点 ②③

が剥脱され、呼吸が浅く、腕が上がらなくなり、体力も減弱してしました。また、白血球が元気になることでウイルスや不要な細胞などが掃除される他、ホルモンや神経などが安定し、遺伝子の修復酵素の働きも改善することによって血管の圧迫を緩和し、呼吸も高まるため自然治癒するものと考えられます。

私の研究では、乳がん患者の全員に患側の鎖骨に歪みや癒着があることが確認されています。

そのため、鎖骨下で動脈やリンパ管が圧迫され乳房が壊死してがん化するものと考えられます。

〇七年九月十七日に岡崎から来た五十代の女性は、二年前に乳房の全摘と胸の筋肉と付随するリンパ節も切除され、一年後に肺に転移したため抗がん剤治療も受けましたが貧血

除しても温存しても、パ節まで切除されている生存率に差がないという試験結果が国際的に相次いで発表され、乳房温存療法が普及し、ある教授等が、ハルス乳がんは小さく切除し、テッド手術に慣れ、時代の変化に対応できていないためと考えられる。

ところが、日本では現在もなお、全摘による大勢の患者がリン

講演会のお知らせ

テーマ (1) 午前
 「腹水の原因とリンパの構造」
 講師：大沼善誉 自然医学総合研究所所長 ナチュラルケアセンター院長 平成11年度社会文化功労賞受賞 生化学博士・名誉医学博士

テーマ (2) 午前
 「新しい時代のがん治療」
 講師：酒向猛 元岐阜県立多治見病院外科部長 医学博士

テーマ (3) 午後
 実技及び、無料相談と体験
 開催日：2月17日（日）名古屋市東区ウイイルあいち
 時間：10時～16時30分
 会費：会員無料、非会員1000円
 主催：民間非営利団体 国際自然免疫学会
 共催：自然医学総合研究所
 申し込み：自然医学総合研究所
 TEL 052・801・7063
 3まで

（名譽医学博士・生化学博士・平成11年度）
 社会文化功労賞受賞・ナチュラルケアセンター院長
 （毎月第1木曜日に掲載します）

問い合わせ
 電話 052・801・7063
 Eメール yoshinori@nrt.ne.jp
 URL http://www.nrt.ne.jp